

第3号

長崎県公立高等学校事務長会
長崎県立長崎南高等学校内
〒850-0834
長崎市上小島町4丁目13番1号
☎0958-24-3134

ばってん

事務長会結成三十年記念誌を読んで



副会長 西川安政
(佐世保北高等学校)

先般、事務長会広報活動委員会委員長より「ばってん」第3号への執筆の下令があった。年の内は、どうにかなるさと高を括っていたが、年明けには尻に火がつき、後悔の臍を噛んだ。さて、何を書こうかと思案しつつ松尾会長より送ってもらった事務長会誌「三十周年記念誌（長崎県公立高等学校事務長会）」をひもといていると、なんと私たちの若かりし頃の写真が3ページに載っているではないか。懐かしい思いにふけりながら当時の頃を思い出した。これには事務長会結成三十年の佳き年に、私が「授業料納入実態について」の研究発表（なんの事はない、只の事例発表であつたが）をして

いる。なぜ私がしたかは明白である。当時の佐世保地区において現・佐世保南高松本事務長より私が一歳年下で一番若く、佐世保地区会長からの「お前がやれ」という鶴の一声でお鉢が廻ってきたのである。こうして三十年の節目の年に発表させていただいた。

その日は、目はかすみ、身体ガクガク、人様の前でものを言う事は初めてであり何を言ったか覚えていないが、その頃から授業料滞納者が増えており（何年も前から未納はあつたと思うが、この頃から事実が表面化してきた）口座振込制度の要望が、多くの会員より出されていた。その年の暮れ、授業料口座振込制度の説明会があり、昭和六十年四月より実施さ

れる運びとなった。

しかも現在は事務長会において、未納者対策についての研究・研鑽がなされている。当時、佐世保地区には人材豊富の中で発表させていただいた事に、今でも感謝している。

事務長会が結成された経緯は、このように記念誌に紹介されている。

『昭和二十三年十一月本県に着任された初代教育長田中四郎先生（故人）が次のように述べられている。

「学校といえどもやっぱり事務組織というものをカチーンとしなくてはいかん」と思い、そこで教務課長・庶務課長の制度を設置した。（中略）その後、これももつとカチーンとした方が良からうという事で、学校の先生は、教頭や校長に進むみちがあるけれど、学校事務官の場合はそのまゝになつてしまふからね。どうすればよいかという考へて（中略）事務長制度を作つたらどうかと言う人もあつてね。これを作つたのですよ。（中略）それで、私が作つた最初の趣旨はね、やっぱり事務職員の出遇を良くしてあげようという気持ちです。基本的な考え方はね。やっぱり事務長制を敷いたことによつて、事務長になつた方たちは非常に自重して、ガツチリと事務形態を作つてくれたことと思ひます。」（三十周年記念誌抜粋）

この後、昭和三十年四月一日に事務長

会が結成され、事務長の道が確立された。管理職指定や管理職手当の支給、専決事項・代決事項等の制定に先輩諸氏が尽力された結果、この会が現在に至っている。事務長会結成の目的については「県内公立高等学校教育振興に寄与し会員相互の親睦を図ることを目的とする。」と謳っている。

また、その性格について「友誼団体として活動し、職能団体又は交渉団体の体面はできる限り除外し、親睦並びに情報交換の場として、あくまでも友好的に関係機関と接触し、話し合いの中で要望事項を取り入れ、会及び会員相互の理解向上を図り、将来の展望に期待するものである。」と格付けしている。これらの文面からは、教務課長・庶務課長制度から事務長制度へ移行するにあつたの並大抵ではない苦勞がうかがえる。会員諸氏はこの記念誌を一読いただければ先人のご苦勞や事務長会の発足の流れを知る事ができるし、また、知っておいてほしいと思う。

私は、事務長会の結成された当初の目的と性格を踏襲し、事務長会として、後に続く人達のためにも九級格付けや、法制化の実現・事務職員の処遇改善に向かつて誠意努力し事務長会のお一層の発展に、私なりに寄与してゆきたいと思つている。

事務長会の制度化にご尽力いただいた、故長崎県教育長田中四郎のご冥福と、当時、制度化に携わっていた諸先輩の先生方に深甚の敬意を表します。

なお、文中不適正な表現や言葉足らずの点がありましたらご容赦お願いします。

各委員会の活動状況

学校施設等改善企画委員会

1. 平成9年8月8日 県農協会館
2. 平成9年9月22日 総合体育館
3. 総合学科について
 1. これからの学校づくりについて
 - ア、将来を見通し、特色を生かした、ゆとりある学校づくり
 - イ、生涯学習、総合学科等を考慮し、空き教室等の有効活用を図る
 2. 当面の業務と分担
 - ア、先進校視察
 - イ、中教審答申との関係調査
 - ウ、アンケートの実施
 3. 総合学科について
 - 長崎明誠高校(琴海高)の事例
- ※会は次年度まで継続して事業を行う
3. 平成9年12月4、5日 福岡県立博多青松高・稲築志耕館 高・東鷹高先進校視察実施

職務・職制に関する検討委員会活動状況

1. 一研究テーマは次のとおり
1. 事務長昇任昇格基準の見直し
2. 事務職員の処遇改善
3. 事務長の職務権限
4. 事務長の法制化
- 二テーマごとに小グループを設け、小グループ単位で調査検討を行い、随時全体会を図る。
- 三この調査検討したものを平成10年度の県教委・校長会との協議内容に繋いで行く。

本委員会テーマは、いずれも我々にとって重要なテーマであり又、難しい問題を包含したもので、簡単には解決できないものである。

少しでも前進させることができるよう七人の持ならぬ七人委員が頑張っている。御意見をお寄せいただきたい。

広報活動委員会

◎六月十八日(諫早東高)年間の活動計画の検討。会報を本年度中に二回発行することに決定。更に「ばってん」第2号に記載する内容について検討。

◎九月九日(諫早東高)会報第2号に記載する内容について検討。秋の事務長会で会報は配布済。

◎十二月二日(諫早市「アゼリア」)会報第3号に記載する内容について検討。本紙の完成となった。

廃棄物等処分に関する問題研究委員会

平成9年11月27日(木)大村工業高校において委員会メンバーで勉強会を開催。

メンバーの中ですでに2校校内での焼却を中止している学校があるので説明を受ける。

自治体回収をしている長崎商業高。業者へ委託している佐世保南高校。業いずれにしても、施設(集積物の改善)設備(シュレッダー、不燃物・可燃物の区別ができるゴミ箱の設置等)の整備、又校内でのゴミの分別の体制づくり(生徒、職員合同のゴミ対策委員会等)が必要であろう。

またゴミの減量化(購買部・自販機での販売物の容器の回収等)の努力も必要であろう。

事務諸様式の改善研究委員会

事務諸様式の改善研究委員会

本委員会は二回検討会を開いた。一回目は改善を要する諸様式にどのようなものがあるのか意見交換を行った。人事を除き次のように区分した。

1. 県教委規定様式

2. 財務規制様式
3. 給与・旅費
4. 共済・互助等の様式から見ていった。

二回目は持ち寄った様式の検討を行ない次のような内容になった。イ、区分した2、4は義務制又は県全体に関わる様式なので手を加える事が必要か、ロ、1の県教委規定様式の検討をしたが特記すべき改善の様式は上がらなかつた、ハ、全ての様式は関係当局で定めたもので学校で少しの使いづらさはあっても困惑する程の様式は見当らなかつた。次のテーマとして県教委各課の調査・報告文書等の効率化に対する議論をし、現在の郵送文書を財務会計オンライン機器による給与報告をしようとするようなシステムを導入することによる迅速化、正確性を図る提案がなされた。

事務職員定数と図書館業務研究委員会

本委員会は8年度より継続事業として研究していますが、大変難しい問題を抱えております。本年度は各学校の図書館業務の現況を調べ、かつ図書館業務を行なうために、事務職員の配置上の問題点と関連性について調べようとしてアンケートを取りました。

アンケートを取って見ると、各学校によって図書館業務に対する対応がいろいろあるようです。本年度が本委員会としての研究の最後なので、委員会報告を何らかの方法で出来たら、思っています。

本年度の委員会開催は、第1回が平成9年6月27日に諫早高校、第2回が平成10年1月16日に諫早高校で行いました。

授業料納入促進委員会

授業料納入促進委員会は、現在まで三回討論会を重ね、最初に今年度の取り組みについて協議し、秋の事務長会でアンケートをお願いした。それを

集約整理することによって、現時点での各校の現状を把握することから始めるべく現在作業中である。

関係各方面のご意見を拝聴しながら、今後の取り組みについて検討したいと考えており、一月二十八日に第四回の委員会開催を予定している。

情報教育機器促進委員会

◎平成10年一月一六日 於佐世保中央高

1. 情報教育機器を促進するとともに、学校種によって希望が違ふと意見がでた。

学校現場で一番希望意見に精通している事務職員と意見交換会をする。県北地区を中心に数人をお願いする。

その後、情報教育機器の中央研修を受講した人と意見交換会をする。それを踏まえて、その後の方向性を決定する。

2. 次期開催予定は3月中旬の予定であります。(一月末現在)

事務長必携編集委員会の活動状況

1. 平成9年9月4日(大村) 各班の進捗状況と秋季事務長会の中間発表について協議
 2. 平成9年9月30日(大村) 様式、目次、編集内容等について検討
 3. 平成9年10月23日(平戸) 秋季事務長会で概要の中間発表とアンケート調査を実施
 4. 平成9年11月25日(川棚) その後の進捗状況と編集日程について協議
 5. 平成10年2月23日(大村予定) 各班の原稿取りまとめと内容の確認作業
 6. 今後の編集日程について
- 平成10年度の秋季事務長会で完成版を配付し、本発表を行うことが決まりましたので、今後、これに向けて原稿の校正と関係先へ見てもらった後、印刷製本に入る予定です。
- (一月末現在)

海外研修余話

五島高等学校
肉丸 剛

研修も半ばを過ぎたある日の午後、全日程を通じて唯一の自由時間が組まれていた。予定ではセーヌ河に浮かべた船の上で食事をする事になって居るのだが、私はこれには加わらずルーブル美術館を見学するつもりでいた。食事ならば何も船の上でなくともどこでだって食べられるし、何なら一度くらい抜いても構わない。メシは日本でも食べられるがルーブルはパリでしか見ることができな



トレドの街を背景に

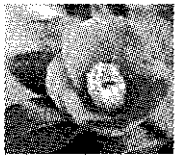
い。だから、せっかくの自由時間をメシのためにつぶしてたまるか、と思つたのである。この案に二人の賛同者が現れた。

世界には各国の美術館を構成員とする、いわば「ルーブル美術館友の会」とでもいうような組織があつて、日本にも加盟館があるぞうだ。そのうちの一つが宮城県立美術館なのだが、たまたま今回のメンバーにその方がおられて、彼が私に加盟館カードを貸してくれた。それを入口で見せれば無料で入館できるらしい。そこで、そのとおりにしたら本当に無料で通してくれた。しかも、それまでは無言で無愛想に切符を受け取るだけの受付嬢が、私のカードを見たとなんか愛想のよい対応に一変して、いかにも「さあ、どうぞ奥へお通りください」とでもいわんばかりの風情で館の奥を指し示すのである。なるほど、靈驗あらたかなカードだった。つまり私は天下のルーブル美術館に堂々とタダで入つたのである。

こうして私は絶世の美女二人に会うことができた。もちろん「ミロのヴィーナス」さんと「モナ・リザ」さんに決まつている。

随想

つばき



教育の赤字

長崎東高等学校
校長 平田 徳男

「今、教育は赤字を出してしまつね。それも旧国鉄のような膨大な赤字を。」これはある県の高校長協会長の言葉です。

認めたくないけれども、収支決算はそうかもしれないな、と考えながら、ある数字を思い出しました。

八億八八〇万円。これは、平成八年度、わが校の教職員に支払われた給与(税込)の総額です。

民間会社だったら、これだけの給料を支払うためには、どれだけの売り上げが求められるのだろうか。

そんな思いを、校内研修会で、職員に話したことがあります。反応はさまざまでしたが、初めて聞いた金額の大きさに、一様に驚いたという表情でした。

県の平成九年度当初予算の総額は七、八九六億六〇七三万円。そのうち県教委所管は一、六六七億九六一六万円。そのうち給与費は一、四五三億四〇八一万円で、実に県教委予算の八七・一%を占めています。

「教育の評価ほど難しいものはない」と言えば、たいていの人とは同意してくれます。「何をどのようにな」という基準がないからです。そもそも、人間を評価する時、(学校)教育の効果や影響がどれ

ほどあるのか適切に測る方法はありません。

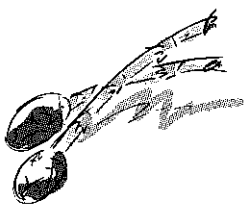
稲の出来具合のどこまでが人間の力か測れないのと同じです。人間が手入れを怠れば豊かな実りはありません。しかし、どんなに手入れをしても、天候に恵まれなければ、これまた、豊かな実りはありません。稲自身の生命力の強さも、土壌の良さも必要です。

豊かな実りはこれら相互の総合力の成果です。手入れの効果はなかなか出ませんが、手抜きの結果はすぐ出ます。時期を失しない手入れが必要で

人間が人間にはたらしめかける営みである教育が、プラスにしろ、マイナスにしろ、効果や影響を伴わないはずはありません。

「生徒たちの『今』の大切さが分かつていたか。(自分ではなく)もっと立派な人に教わっていたら、という謙虚さがあつたか」と、反省の種は尽きません。

そして、大きくは戦後教育の、小さくは自分自身の教育の出した赤字の質と量が、退職を前に大いに気になっていきます。



佐世保東商高 久富敏行 「東商から東翔へ」

本校は、昼間定時制の早岐高校を発展的に継承する形で、昭和三十七年に産業界で活躍する人材の育成を目的に商業高校となり、今回の学科改編により総合学科として、平成十年度よりスタートする。

総合学科とは、さまざまな個性をもつ生徒を積極的に受け入れ、生徒一人一人の個性に対応できる教育課程を選択させ、自分の興味や関心のある科目を自分の意思で選び、自分の時間割を作り、就職や進学という目的に沿って、主体的に学習することを目的とした第三の学科である。

本校では、「人文国際」、「数理情報」、「会計ビジネス」、「流通観光」、「生活福祉」、「芸術文化」、「スポーツ健康」の七つの系列に関する科目を開設予定している。

生徒は、高校生として最低限必要な必修科目と、個々の要求に応じた科目を選択履修することができる。本校では、必修科目で三十一講座、選択科目で百二十二講座を予定し、受講希望者が五人いれば開講する予定である。そのため各系列でどのような施設、設備が必要であるか検討した。しかし、既存施設の改修対応という県の方針と、在校生の教育課程等を考慮して三年間で改修する計画書を作成した。その計画も総合学科生の選択希望によるものでなく、開設予定科目に計画であり、はたして受講希望者がいるか、広さは十分か大変不安である。

今年度は、大講義室、音楽室、美術室、書道室、L1教室、ガイダンス室等の改修工事に着手した。校名も「長崎県立佐世保東翔高等学校」となり、校旗、校章、校歌から制服にいたるまで一新する。

東翔高校に入学してくる生徒達が、自分の将来に夢と希望を持ち、その実現のため有意義な高校生活を送れるような学校を目指したい。

学校間連携

連携と同じ目的で何事かをしようとするものが連絡をとり合つてそれを行うこと。(岩波・国活辞典) 連携という言葉は辞書で見ると以上のような説明である。

いま鳥原市内の県立高校四校鳥原高、鳥原商高、鳥原農高、鳥原工高で学校間の連携を利用して高校生が授業が実施されている。鳥原市内地区以外の高校の事務長さんには学校間連携と言っても辞書の文句どおりなのかさっぱりわからないでしょうから学校間連携について少し説明しましょう。

〔問〕学校間連携とは何か？

〔答〕教員組織、施設、設備等の関係で自校で開設が困難な科目について、他校の科目を履習する機会を与え、その学習成果を自校の科目の単位として認めることができる制度です。

〔問〕どんなメリットがあるのか？

〔答〕1. 自分の進路目標に向けて、今まで自校の履習科目がなく学習が不可能だった科目を履習できます。
2. 各校が他校の生徒を受け入れ、少人数クラスで充実した指導が受けられます。
3. 資格取得が可能です。
4. 体験的学習を通して楽しく授業が受けられます。

〔問〕どんな科目が学習できるのか？

鳥原高校(全日)で倫理、ライティング、数学B、美術2(定時)で書道
鳥原農高で生物工学基礎、動物基礎
鳥原工高で工業基礎
食品加工

鳥原商高で簿記、情報処理、文書処理
右の学校でそれぞれの科目が学習できます。

〔問〕どのように学習するのか？

〔答〕毎週木曜日の五、六校時の2時間で学習(休み時間を利用して相手校へ登校)
〔2〕修得した単位は自校の単位として認められます。

〔問〕どんな資格が取れるのか？

〔答〕検定試験(有料)を受け、合格すれば以下の資格が取れます。
簿記……簿記実務検定3・4級
情報処理……コンピュータ利用技術検定3級
文書処理……ワープロ検定3・4級
工業基礎……計算技術検定3級
情報技術検定3級

学校間連携の授業は平成九年四月から三年生を対象に実施されています。

「教育を語る 資質を有する」

北松南高等学校

事務長 木下 謙

新任事務長になって、一年経過したことになります。

地区・新任・県事務長会と出席、参加し、先輩事務長さんのご指導、ご鞭撻を賜わり、感謝いたしております。

4月1日付 出納員・事務長の事務引継ぎに始まり、4・5月の行事、提出物の期限締切り、6月になって、時間に余裕ができ、4月に足速に引継いだ会計、懸案事項を読み直しました。その際、前任事務長さんが残してくれました財産(文書・資料)を読ませていただきました。

た。その中に「第19回 全国公立高等学校校務長総会」シンポジウムテーマ「公立学校の経営と事務長の役割」がありました。

「事務職員の方はいったい何であったか」といいますと、行政は教育の外的事項であるということと価値的行為としての教育から排除されそこから疎外されるというようなことで、物的条件の整備のみならず条件整備という名でかぶされてしまったのです。

これは内外区分論という教育法制理論をかまえてきた一つの行き方が、今破壊しているということです。各論の第一は教育の内外区分論から脱却することだと私は思います。又、第2番目には学校事務観というものは車の両輪であるとか或いは庶務会計であるとかをういつたことだけに目を向けるのではなく、21世紀の教育は何か、そこに学校事務というものが、どう必然性があるのか、こういう視点をもたなければならぬだろう思っているのをごさいます。さらに、総論的なものをおさえかつ各論の柱をおさえ、21世紀に向かう教育にきちつと目

をすえた事務職員こそが経営者たりうる資格を有し、それがかつ法制上義務設置とした高等学校以上の事務長さんにとつては必須の要件であるというようなことを考えていきたい訳であります。「パネリスト森谷宏氏 文教大学講師事務職員に採用されて以来、私が教育の世界に抱いていた疑問、不満が内外区分論であったのかを説明し、将来像まで描き出していることに、目から鱗が落ちる心境です。

編集後記

最後に、この資料を残してください

前任事務長さんに感謝申し上げます。事務長になれますよう、自助努力と品性の向上に努めてまいりたいと思います。

会報「ばつてん」もいよいよ第3号発行までこぎつけた。創刊号はそれぞれ暗中模索でどのような内容のものにするか全国各県の事務長会の会報を集めるにひと夏かかった。第3号までくるとひとつのバターンが出来たような気がする。七十八名の全事務長が自主的に投稿してくれたなら記事を割愛するぐらいあり原稿不足の心配はなく編集委員一同楽であるが現実はそのとはいかないものである。

第三号についての編集委員会は十二月二日、雲の空模様の諫早市内であったが、広報活動委員のK事務長冬の至るの寒気にもめげず持論の事務長としての向上心の必要性を熱心に風発。他の一同聞き役にたつたので会報の一頁分は原稿になると安心した次第。

K事務長の言のように会報が事務長の資質の向上に役立つように願うばかりである。(鳥原工高・高木)